



や わ た し つ げ ん
八幡湿原

**再生
目標**

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系の再生を目指す。

DATA

エリア：西中国山地国定公園
所在地：広島県山県郡北広島町
着手：H15～

八幡湿原自然再生協議会

概要：臥竜山麓八幡湿原地域において
湿原環境の再生を検討。

設立日：H16.11.7

全体構想作成日：H18.3.31

実施計画作成日：H18.10.30（広島県）
（R4.3 現在）



ヒメシジミ



カキツバタ



（撮影：広島県立林業技術センター）

本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000 m級の山に囲まれた標高800 mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツグ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成し、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。

自然再生の手法

- ▶ 立木の伐採
- ▶ コンクリート水路の撤去
- ▶ 自然形態の河川への整備
- ▶ 河川の堰上げ
- ▶ 導水路の整備

事業の効果

導水路の整備等により、湿地状態が再生されつつあります。また、引き続き、再生状況をモニタリングするとともに、自然環境学習等に活用していきます。

ここに注目！

環境を活かした普及啓発活動

自然再生のための工事を実施した後、本協議会では、現在、維持管理や普及啓発に力を入れています。特に、多くの人に身近な自然に対し親しみを持ってもらうことを目的とした体験型環境教育プログラムでは、地元の学校と連携し、子どもたちが地域への愛着を深めるきっかけとなるよう働きかけています。また、広島県でも特有の気候や自然のある本湿原では、環境を活かしたスノートレッキング等のエコツアーも展開しています。

関連ホームページ

Eco 広島～環境情報サイト～：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/j-yawata-conf-conf.html>

自然再生事業を進めるために

**多様な主体による
協議会の発意・呼びかけ**

自然再生協議会は、地域住民、自然再生の活動に参加しようとする方々、特定非営利活動法人（NPO）やその他の民間団体、学識経験者等の自然環境に関する専門知識を有する方、土地の所有者、関係行政機関、都道府県や市町村等の関係地方公共団体といった多様な主体によって構成されます。

自然再生協議会設立の発意や呼びかけは、自然再生事業に参加しようとする主体であれば、誰でも、どの団体でも行うことができ、実際に、地域での活動といった小さな取り組みが発端となって、自然再生協議会にまで発展した事例もあります。

また、自然再生推進法においては、地域住民やNPOが自然再生事業を実施しようとするとき、国及び地方公共団体が必要な協力をするように努めなければならないと定められています（法第4条）ので、以下の問合せ先も参考に身近な関係行政機関や関係地方公共団体にもご相談ください。

【お問合わせ先】 <https://www.env.go.jp/nature/saisei/contact/index.html>

地域おこし活動から発足した協議会 一久保川

久保川イーハトープ自然再生協議会は、岩手県一関市を流れる久保川流域の、ため池、水田、用水路、河川の調和した素晴らしい景観を持つ地域で自然再生に取り組んでいます。この優れた景観や生態系を保全する取り組みは、「北上川流域の歴史と文化を考える会」として、歴史を活かした地域づくりを行っていたころから始まりました。平成17年頃、地域では当たり前に見ることができたドジョウがみられなくなりました。その原因を探り、対策を考えるために、学識経験者に現地を見てもらうこととなりました。この時の学識経験者からの勧めがきっかけとなり、現在の協議会が発足しました。

協議会が発足したことで、ユネスコの第1回プロジェクト未来遺産に登録されました。また、地元企業の協力が得られたり、大学の研究者も訪れるなど、幅広い分野の人々が集まり始め、活動の知名度は高くなっていきました。近年では、事務局の呼びかけに応じて、国の機関や行政も、以前より多く参加するようになりました。



協議会総会の様子



企業と地元児童の参加による耕作放棄地のビオトープ化作業